

これまでできなかった オーバーホールが可能に！ ディーラーではまるごと交換が通例

DSG やストロニックのトラブルは、今に始まったわけではなく、以前から多数の事例が報告されている。だが、その対処方法についてはメカトロニクスやミッション本体などをまるごと交換するしかないと言われていた。実際ディーラーではこういった ASSY 交換となるのが通例。だが、うしぶせ自動車では独自の修理技術と部品の入手に成功し、リーズナブルなオーバーホールが可能にしている。



DSGやストロニックには乾式と湿式があるのだが、乾式の7速タイプにおけるトラブルパターンは4つとのこと。まず1つめが、メカトロニクスと呼ばれるコンピュータユニットの不良、2つめがクラッチ不良、3つめがフライホイールの不良、そして4つめがミッション内部にあるベアリングの破損などが挙げられる。こうしたパターンを導き出したのも、これまでの経験が生きているからだといえる。

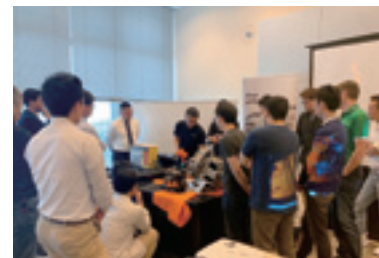


乾式7速タイプにおいてミッション本体に問題がある場合は、リビルドが必要になる。オイル漏れがひどかったり、内部にあるベアリングが破損して異音が発生している場合などが代表的な症状。うしぶせ自動車では、現品修理に対応するほか、リビルド品も用意しているので、素早く対応することができる。



ニット不良、オイル漏れ、油圧不足、内部にあるソレノイドバルブの不良などが多いです」
では、なぜ今まで他の工場でのオーバーホールができなかったのか。「こうした修理をする際には、メカトロニクスを外す知識や工具、消耗部品を用意する必要がありますが、まずそれを独自のルートで入手しています。さらに、分解の手順や注意すべきポイントなどはこれまでの経験で得たものがあるので、オーバーホールが可能になったんです」

にプロメカニック向けのセミナーを実施しているのだ。
「もちろん、遠方から来てくれるユーザーさんはありがたいのですが、もし私がユーザーなら、自分が住む地域で直せるのが一番だと思っんですよね。そういった思いもあって、技術を公開することに決めたんです。技術的なノウハウはもちろん、部品の供給もできるので、今後 DSG やストロニックを直せる工場を増やしていくのが、今の目標ですね」



代表の河田氏は、DSGやストロニックの修理技術を全国に広めたいと考えており、定期的にセミナーを実施している。



メカトロニクスを外すための専用ツール。こうしたツールやオーバーホールに必要な部品も販売している。

●ユーザー向け修理、プロ向けセミナー等の問い合わせは「うしぶせ自動車」まで。
TEL：055-931-9260

特別企画 VW&Audiユーザー必見！ DSGとストロニックを 格安で修理できる ファクトリーを発見！

フォルクスワーゲンに搭載されるDSGと呼ばれるAT、アウディではストロニックと呼ぶが構造は同一。近年、このDSGとストロニックのトラブルが多発しており、新品交換以外の対処方法がなかった。だが、これらをリーズナブルなオーバーホールで対応してくれる修理工場を発見！ 早速、話を聞いてきた。

●文=GERMAN CARS ●撮影=G.C.E ●取材協力／写真提供=うしぶせ自動車（TEL：055-931-9260）



あらゆるトラブルパターンを熟知している 格安に修理できる メソッドを確立した！

どんなクルマであっても、ATの不良は高額修理に入る。クルマによっては数十万円単位の費用がかかるので、乗り続けるか、新たなクルマに乗り換えるか迷う選択だ。メルセデス・ベンツやBMWにおいては修理メソッドが確立されており、トラブルが発生してもオーバーホールで対応できるから、まるごと新品に交換するよりもはるかにリーズナブルに直すことができる。

「DSGやストロニックといっても、様々なタイプがあります。大きく分けて乾式と湿式があり、ギアも6速と7速があります。弊社ではどのタイプも修理可能です。乾式の7速について話をすると、アウディA1、A3、TT、Q2、VWゴルフVI、VII、シャラン、トウラン、シロココ、ザビートルなどに搭載されているトランスミッションです。」

どれも販売台数が多いクルマですが、クラッチの磨耗によって発進時、後進時にジャダーが出るという症状が多いです。これは乾式のクラッチであるため、物理的にクラッチが減ってしまうのが原因。ディスクとプレッシャープレートとのクリアランスが広がってしまっ場合は、クラッチの交換が必要になります。異音が出て、前後全く動かない場合には、メカトロニクスと呼ばれるユニット

●「DSG」「ストロニック」ってなに？

VWのDSGやAudiのストロニックは、今日、最も進んだトランスミッションといえる。例えば6速タイプの場合、1、3、5速の奇数側ギアと2、4、6速の偶数側ギアにそれぞれ独立したクラッチを与え、走行中はどちらかのクラッチを接続することで駆動力を得る。変速は主にクラッチを切り替えるだけなので、瞬時に行なえることからシフトもスムーズでロスが少ない。イーゼードライビングを実現しながら、スポーツドライビングでもMT以上の速さを発揮できる。まさに理想的なギアボックスだ。



●トラブルパターンは？

その複雑な構造によるものなのか、DSGやストロニックにはトラブルが多く発生している。クラッチの磨耗によるジャダーの発生、突然クルマが動かなくなる、異音の発生、ミッション本体からのオイル漏れなどが代表的なトラブル事例となっている。また、クルマによって乾式と湿式があり、さらに乾式にも第1世代と第2世代があるなど、様々なタイプがある。





所在地：静岡県沼津市西島町19-25
電話：055-931-9260
HP：http://www.ushibuse.jp/
営業時間：8:30~17:30
定休日：日曜・祝日・月2回土曜日



広い敷地面積を持つ、うしぶせ自動車。ドイツ車ならどんな整備にも対応できる設備が整っている。

AT修理が得意なファクトリー

静岡県沼津市にあるうしぶせ自動車は、ドイツ車を中心とした輸入車の整備に強いファクトリー。同店の強みは、前頁までで紹介してきたようにAT修理にあるが、もちろん一般整備にも豊富な経験と高い技術を持っている。重整備においてもATだけではなく、エンジンのフルオーバーホールも自社で行なっており、ドイツ車を長く愛好するユーザーから絶大な支持を集めているのだ。同店のピットには9基のリフトを完備。ATやエンジンのオーバーホールをする場合、ミッションやエンジン本体をクルマから降ろす必要があるため、敷地やリフトが少ないと、整備待ちの時間が長くなるケースが多い。だが、同店では広い敷地と多数のリフトを持つため、部品さえ揃えばスピーディに対応してくれるのが嬉しい。また、メンテナンスに使用する部品については純正品以外のチョイスを提案してくれるので、予算に合わせた整備を実施できる。そんな噂を聞きつけ、県内のみならず全国のユーザーが同店に集まってくるというところからも、クチコミ評価が高い信頼できるファクトリーだといえるだろう。

静岡県 うしぶせ自動車

充実した設備と高い技術を持つ



純正品以外の部品を使ったメンテナンスも提案してくれる

うしぶせ自動車では、ドイツの補修部品メーカーであるSWAGを取り扱うなど、純正品以外の部品を使ったメンテナンスプランを提案してくれる。純正を使うか、その他の部品を使うかというチョイスも、豊富な経験でアドバイスしてくれるので、今後の維持にとても役に立つ。



現代の整備において必須となるコンピュータ診断機

現代のドイツ車には高度な電子制御システムが搭載されているが、それにより整備の現場にも大きな変化が起きている。故障診断においては、昔ながらの勘や経験に加えて、コンピュータ診断機を使った電子ユニットやセンサーの状態を把握する必要がある。そのため、コンピュータ診断機を持っていないと、まともな整備ができない状況になっているのだ。うしぶせ自動車では、AUTELなどの故障診断機を多数完備しており、どんなドイツ車に対応できる体制が整っている。



エンジンのオーバーホールも可能

ドイツ車に搭載されるエンジンのフルオーバーホールを自社で行なうほどの高い技術力を持つ、うしぶせ自動車。ドイツ車を長く乗り続けたいと思うユーザーにとっては、駆け込み寺的な存在といえるだろう。



アズニューのインジェクター洗浄機

燃料の出口となるインジェクターに詰まりなどが生じると、エンジン不調の原因になる。これを解決するのが、インジェクター洗浄。うしぶせ自動車ではこの洗浄機を完備。ちなみに、写真はアズニューの洗浄機。



バルブボディの状態を正しく把握できるから確実な診断が可能になる

ATの心臓部であるバルブボディ。内部にある油圧経路は迷路のような構造。うしぶせ自動車では、このバルブボディ単体を点検できるテスターを完備している。これによってバルブの油圧不足などをチェックでき、分解修理が可能かどうかの判断をしてくれる。やみくもに部品を交換するのではなく、本当にダメになった部分を特定し、直してくれる。

ATFはZF製を使用



ZF製ATをオーバーホールする際にはATFも入れ替えるわけだが、うしぶせ自動車ではZFが提供しているATFを使用している。製造メーカーが使用しているATFがもっとも確実で安心というのが理由だそう。また、BMWはフィルターとオイルパンが一体式になっており、オーバーホール時にはこれらも新品に交換するのがセオリーとなる。

BMWなどドイツ車に多く採用されているトランスミッションメーカー

ZF製ATも修理可能

うしぶせ自動車ではBMWなどのドイツ車に採用されているZF製ATのオーバーホールも可能。恐らく日本では1台しかない専用のテスターがあり、正確かつ確実なオーバーホールを行なってくれる。BMWユーザーはチェックしておいてほしい。

●文=GERMAN CARS ●撮影=G.C.E ●写真提供=うしぶせ自動車



ZF製ATの6、8速が修理可能

警告灯の点灯や変速ショックなどが発生
BMWの多くに採用されているATはドイツのビッグサプライヤーであるZF製。電子制御式で一般的なトルクコンバータタイプとなっている。BMWでもATのトラブルは発生していて、警告灯の点灯、過大な変速ショックなどが代表的な事例だ。うしぶせ自動車には、日本で1台しかないと思われるバルブボディの油圧点検ができるテスターを完備している。とても高価なものらしく、「日本で導入している工場は、恐らく弊社だけかもしれませんね」と代表の河田氏は話す。

その点、うしぶせ自動車では、オーバーホールで対応してくれるので、費用を抑えつつ、本来の性能を取り戻してくれる。ZF製ATの6速と8速タイプについては、オーバーホールで対応できることだ。
れるATのコンピュータユニット不良などが挙げられる。
同店ではコンピュータ診断機でトランスミッションの状態をチェックし、さらにバルブボディの点検を行なうことで素早く原因を特定していく。BMWに限らずだが、ATの不具合でディーラーに持ち込むと、新品交換か、リビルド品と呼ばれる、内部の消耗部品を新品に交換したミッションにまるごと交換するのが一般的。費用はクルマやトランスミッションのタイプによるが、とても高額であることは間違いない。